

幾世幾年

(大正二年竈歌)

木原均君 作歌
柳沢秀雄君 作曲

一

幾世幾年流れけん
永劫隔つ後までも
洋々声なく野をこえて
銀河に似たる石狩の
岸辺静けき夕まぐれ
導く星を仰がずや

二

巷の塵の跡を絶ち
情眼をさます雪嵐
毘嵐万里をかけりては
天地もゆらぐすさまじさ
万象淋しく装ひて
蕭々寒き冬景色

三

めぐる月日の尾車や
さざめく小河春告げぬ
あはれ幸ある北の国
緑が丘に打ち臥して
薫る微風身にうけて
常世の春を偲べかし

四

清き真理の渚より
無窮を照らす最高の
天つ光明を探り得て
迷ひの羈絆解きほどき
闇を排して永遠の
理想の郷を拓く可し

五

一百意気みつ北蝦夷の
健児よいざや奪ひ起て
白き朔風われにあり
曠野に練へし心身も
歌へ壮なる勝歌を
島根に高く勇ましく